

NPO法人シルバー大阪21協会と風の会が新しい試み!

高齢化が進み2025年には65歳以上の高齢者が1000万人以上になると予測されています。この社会にどう対応していくのかということも考えていかねばなりません。今後さまざまな政策が考えられる中で「介護」という問題は避けて通ることはできない重要な課題です。そこで風の会は今後NPO法人シルバー大阪21協会と提携しホームヘルパーや介護関連者とのコミュニケーションの場を設け情報交換を行っていきます。そして介護動向と現場の声を届けると共にこれからの介護について提案や相談等をしていきたいと考えております。

情報の共有化

NPO法人シルバー大阪21協会

- 介護福祉士国家試験予備講座
- ホームヘルパー2級養成講座
- 救急救命講座
- ほか 役立つセミナー 等

ゴールデンエイジネットワーク風の会

- 健康の知恵
- 遊び・趣味
- 仕事、充実、やりがい
- 生活、介護
- 交流会情報

- 情報交換掲示板
- ヘルパー向け情報メールマガジン
- ヘルパー、利用者とのマッチング
- パソコン教室
- 健康教室

健康の知恵

東洋の健康法に学ぶ

◆氣功

この中に取り入れた氣功について、神戸女子大学の上月節子先生のご協力により、理論を学び実践する機会を与えて頂きました。具体的な進め方については、ホームページや次号の風の会通信で紹介したいと思います。上月先生の氣功とは

- ①生活習慣病をはじめ、従来の医学では完治しにくい疾病を克服することを含め、自己治療力向上のための技法を習得すること。
- ②氣功法の習得を中心とした、それに関連する学問領域についても学習します。

上月節子先生プロフィール

日本健康回復学会代表理事、神戸女子大学准教授、工学博士。人間工学情報を活かしたシステム設計の研究手がけてきたが、10数年前からヒトの特性とHealthcare Engineerとの同調の方法を取得して、長年の心臓疾患を克服した。以来、Healthcare Engineerを活用による自己および他者の治療力向上に関する研究を続けている。

最近ではネット医学の研究を初めとして、中国、英国などの氣功を含むMindlineの現状調査を行い、同時に日本健康回復研究センターの一部門としてMindline(氣功)・経路療法研究所を開設、Mindlineと経路療法との交互作用についても研究中である。

論文に「氣の科学と健康」

「体脂肪率の変容にみる氣功の効果」(花粉症)向けOnlineLine

「Mindlineの効果」などがある。



サイト内探訪

風の会のホームページの一部を紹介するよみんなアクセスして参加してね。



<http://www.g-kaze.com>

趣味の会

◆川柳の会

参加型交流会

以前より掲示板に川柳の書き込みが多く、この度「川柳の会」として発足しました。気軽に投稿できる。投稿掲示板、掛け軸風の推薦作品集などを用意し、皆様の個性豊かな作品をお待ちしています。

作品が増えてゆくのも楽しみです。人生は、迷える程に、艶を増し、堺市夢見頃・家計簿の、意味が知りたい、この数字、風香、いい風が、吹くまでまどう、風車、雪男



投稿掲示板
こちらから作品を投稿して下さい



投票により、今月の推薦句を決めます。推薦作品はこの様な掛け軸風になります



◆写真愛好会

写真が趣味という方に発表の場として使って頂けたら、ホームページで、あなただけの個展が開けます。



応募は、ご連絡先と簡単なプロフィールを送って、info@g-kaze.comまたは郵送で、上限20枚。写真は返却致しません。メールは1回1MBまで。



上 大/ 宮本義夫さん
左 他/ 小池真四郎さん
下 宮島・蔵島神社/ 鈴木恵二さん



若狭谷さんの

世界一周航海日誌

台湾にて

第一回香港地

12月26日夜8時神戸出港、1800km航行して、58時間後の29日朝6時基隆港に到着。気温15度、少し肌寒い。基隆は台湾北端の海の玄関口、最大の漁港でもある。17世紀初頭、



基隆埠頭にて

明代末期の頃には、大陸沿岸を荒らした海賊倭寇等の巢窟であったと言われる。基隆から清州の行き届いた電車に揺られて35分、首都台北に着く。駅舎は、地下4F、地上6F、プラットフォームは地下2F、地下街も良く整備されている。若い人達は英語が通じ、旅行者にも親切である。台北を始めて訪ねたのは、38年前の1964年12月であった。某電機メーカーの貿易部員であった私は、台湾資本との合弁で建設した新工場。の視察と同市の中心地区に設置する広告塔の候補地検分が、出張の目的であった。

大阪府立大学校友会前会長 若狭谷 好一さん

当時の市街は、高層ビルも少なく、植民地風の古めかしい建物が軒を連ね、雑然としていた。近代的な市街化が着々と進んでいた香港を経由して入台した事もあって、大きな落差を感じたものである。戒厳令下ではあったが、日本との経済交流は既に活発化しており、ビジネスでの訪問者にとっては、何の緊迫感も無かった。郊外に一步出れば、道路の舗装も悪く、村民も裸足で歩く長閑な田園風景が広がっていた。

現在の台北市内は、高層ビルが林立し、目を覚ますばかりの変貌劇だ。市民の足はスクーター、自転車が多岐をなして行き交う北京や上海とは違った風景である。一人当りのGDPが、中国本土を一步リードしている証である。駅前には、台北で一番高いビル、新光人寿保險摩天大樓が聳える。高さ244メートル、46階に展望台があり台北全景が望める入場料150元(600円)は結構高い。

街角で焼き餃子を1個40円で買求め、隣の靴はかき捨てとばかり、街の人達と同じように食べながら歩く。街の風景にすっかり溶け込めたような気がして、これが一番楽しい思い出となった。

次の寄港地は、不思議の国、ブルネイのムアラである。



市民の足、スクーター駐車場